

第4回 南部町地域福祉計画策定委員会 議事録

日時 令和2年8月7日（金）13時30分～15時00分

場所 南部町健康管理センターすこやかトレーニング室

（進行：佐藤委員長）

1 開会（委員長開会あいさつ）

（佐藤）昨日米子市で新型コロナウイルスの発生が確認された。町内でもいつ発生してもおかしくないような状況。また、お盆の帰省時期を迎えるため、感染予防の徹底をお願いしたい。

2 協議事項

（1）南部町地域福祉計画推進骨子（案）及び計画素案について ※第3回委員会の続き
→事務局より、資料に基づき説明。

（桑名）前回に引き続き会の時間を短縮せよという指示がある。また県中・東部において新型コロナウイルスの発生が確認されているが、特に東部では誹謗中傷が見受けられる。感染者に対しての差別・偏見は持たないようにお願いしたい。
前は基本目標のⅡまで説明し、ご意見をいただいた。今日は基本目標のⅢから説明をしていきたい。

基本目標Ⅲ 保健・医療・福祉サービスの充実と質の向上

（桑名）これからの地域福祉を考えるうえで、地域の福祉力を高める必要がある。ここでは専門機関・専門職のサービスの充実と質の向上を考えたい。

基本計画1 保健・医療・福祉事業者間のネットワークと協働の推進

（1）異業種間ネットワークの構築

（仙田）福祉事業所で働く者の個々の専門性やスキルアップのために、異業種間でのネットワークを構築し、年齢別、階層別、専門別の多様な交流や研修の機会が必要となる。社協としてはコミュニティーソーシャルワーカーが中心となり交流の場や研修の企画等によりスキルアップとネットワークの構築の場を設定していきたい。

（桑名）地域福祉に関する課題について、それぞれの分野を超えた複合化した課題が増えてきている。分野を問わず連携していかなければ課題の解決に導いていけない。そういった課題に対応できるネットワークを強化していく必要があるため仕組みづくりを行っていく。

基本計画2 新たな社会資源の開発

（1）共生型サービスの開発

（仙田）縦割りではなく異業種間で連携して、制度にかからない人たちを支援するための新しいサービスなどに取り組んでいく必要がある住民や事業者の理解を図り、サ

ービス提案をしていきたい。

(桑名) 福祉課題が複合化しているため、事業者と一体となり対応できるサービスを開発していく。

(2) 介護者支援の充実

(仙田) 介護負担の軽減にも取り組んでいきたい。傾聴ボランティアの育成、技術の向上にも取り組んでいきたい。

(桑名) 虐待ハイリスク世帯、困難ケースを支える仕組みをつくっていきたい。家族会を設立して、後々にこの家族会が発信者になっていただきたい。正しい情報、偏見のない情報を皆様方にお伝えしていきたい。

(3) きめ細やかな就労支援体制づくり

(仙田) 障がいやひきこもりの方を対象に個別支援を行い、地域プラットフォームを活用しながら自立に向けた支援活動を充実させたい。

(桑名) 行政が持っているネットワーク情報を、それぞれの地域プラットフォームで活かしていく。当事者団体との連携強化を図り、情報共有、情報発信をしていくことによって中間就労につなげていく。

基本計画3 福祉人材の確保と育成

(1) 多様な福祉人材の確保

(仙田) 福祉の職場は、職員の確保が難しいという現状がある。その解決のために、イメージアップ、情報提供、待遇改善、さらには必要に応じて外国人の雇入れとか、広い視野を持って考えていく必要がある。福祉施設の人材の確保やPRはもちろん、子供たちへの福祉の仕事の理解を深めたりといったことにも取り組んでいきたい。

(桑名) 少子高齢化を迎えて、福祉を担う人材の確保が大きな課題になってきている。福祉に対して理解し、福祉イコール地域を支えるというような大きい視点を持って取り組んでいただける人材の育成・確保を図っていきたい。

基本計画4 健康づくりの推進

(1) 健康診断の受診促進

(仙田) 健康なくして何もできない、改めて住民の健康意識の高揚を高めていく。

(桑名) 健康寿命の延伸や心と体の健康維持をしっかりと実感していただき、自己管理をしていただきたい。減塩事業など色々発信をしているが、今後も健診等のデータから得られたものから、必要なことを啓発していきたい。

(2) 介護予防と健康づくりの推進

(仙田) 5年後・10年後を考えたときに、集落単位では難しくなってくることを見越して常設型のサロンとか介護予防や運動とか、そういったことが常時できる場所をつくっていくことにも取り組んでいきたい。

(桑名) 新型コロナで100歳体操等を自粛してもらった経過があった。実際に体操に出られなくなって、体調が悪くなったとか、ちょっと動きたくないというような方が出

てきている。継続が重要ということがコロナ禍ではっきりしてきた。体操もしかりだが、ほかの方と話をするというのも健康につながる。常設型サロンとか100歳体操の場合は、重要な位置づけとして考えており、しっかり支援をしたい。

(井上) 説明の中で、地域プラットフォームという言葉が頻発して出てくる。もう一度概念について詳しく説明をお願いしたい。

(桑名) 地域の福祉課題に対して、総合的に色んなことの情報交換や意見交換、協議をしたり、あるいはその場所で行事なり取り組みの企画をしていくようなイメージを持っていただけたらと思う。

(竹川) 今実際にプラットフォームが動いている自治体が八頭町で、そこでは各地区ごとにつくられているまちづくり委員会がコアになり、地域にある介護事業所や障がい者の作業所、学校、生協・農協などが集まって地域の課題をともに話し合う場を作っている。何かをテーマとして具体的に進めているわけではないが、皆で地域の福祉課題を共有する、話し合いの場を設けている。まちづくり委員会は住民が集まってくる場ではあるが、やはり障がいをお持ちの方が集まれないという話題が出てきた。一昨年前の西日本豪雨災害で、障がいをお持ちの方がかなりお亡くなりになったという事実があった。それで、障がい者の方を地域で支えていくようなアプローチを取らないといけない、じゃあどうすればいいんだろうか」というときに、いきなり障がいをお持ちの方と接するのが難しい、という話になった。そこで、障がい者の事業所の方が「それだったら、障がいについて一緒に学びましょう。当事者の方に来ていただいて、その当事者と交流をしましょう。そこから少しずつ障がい者支援のことを考えていきましょう」、というようなプラットフォームができた。東郡家地域で、何回か話し合いをして、交流会ができ、2・3回やった。そのあと、やはり色々な課題が出てきて、それを同時進行で解決していこう、例えば、「食べるところが他にないよね。みんなでもっと交流したいね。障がいをお持ちの方も高齢者も子供もみんなが集まってご飯食べようよ」ということで、「地域共生食堂を作りましょう」ということになって、生協や農協にも手伝っていただいて、誰でも来て障がいの方と関わりながら障がいのことを学びつつ交流関係を作る。そういうものをつくっていこうという企画が生まれてきた。そんなふうな形でプラットフォームは動いている。なので、その課題がクリアできればまた別なテーマで話し合っ、今度は学校のほうから「うちの子どもたちへの福祉教育をこういうふうに変えたいんだけど」と、「地域はこういう風に協力していきましょう」と。そういうふうに整理し、地域の福祉課題を話し合っ、解決していくような場になっていく。

(土江) 具体的なイメージとしては、例えば学校だとか障がい者施設も入った、そういった組織みたいな感じか。

(竹川) もっと緩く、メンバーを固定せずにみんなで話し合おうと。固定してしまうと、

出入りが非常に不自由になってしまうので、その都度必要な人がどんどん入ってきて構わないという位置づけになっている。地区を単位にしているというところが1つのポイントといえる。その地区で住民がどのように交流し、その地区で暮らしを続けるのかというところがやはりポイント。そこは色々な関係者で話し合っ、例えば、そこで引きこもりの方がいらっしゃる。でも、ちょっと頑張れば町に出るのだけれども、じゃあそのときに地域の中ではここにちょっと協力してもらえれば、その場をつくれるのではないかと、同じ地域の中で話し合えるというような場にしてもらえればと思う。そういう使い方もできるかなど。

(土江) イメージとしては地域ごとにプラットフォームがあって、協議会ごとだとか集落ごとだとか。

(竹川) 集落では小さ過ぎると思うので、ある程度のエリアというところでいくと南部町に置き換えると、やはり振興区というレベルでこのプラットフォームが7つできていく。最終的には町全体のプラットフォームという2層体制を作っても構わないと思うが、基本は地区を単位とするプラットフォームかなと思う。

(佐藤) 組織は、そういう緩やかな組織なのだけれども、コアとなる部分がなくてはいけませんよね。コアとなる部分は今お聞きすると、地域振興協議会、これからできるであろう福祉ボランティアあたりがコアとなるのかなと思うのですが。それでよろしいか。

(竹川) そういう考え方で間違いない。八頭町の場合はまさにまちづくり委員会が核となっていて、これからのことを考えれば振興協議会がまさにコアと言えると思う。そこに色々な関係機関が集まってきて協議をするというイメージ。

基本目標Ⅳ 地域で安心して暮らせる基盤づくり

(桑名) 町に住んでいただく、住み続けていただく、南部町に住んでいてよかったと思われるようなまちづくりを進めていく必要があると思う。それらについて、どのような取り組みが必要かということで整理をした。

基本計画 1 社会福祉法人等の地域貢献の促進

(1) 地域課題に対応する社会貢献活動の促進

(仙田) 地域プラットフォームへの積極的な参加が必要。社会福祉法人が連携して生計困難者を支援する、えんくるり事業への積極的に参画する必要がある。社会福祉法人同士の事業所間の連携を図る必要性があるので、連携を図っていきたい。また、地域振興協議会と、福祉事業所間の連携も、支援していきたい。

(桑名) 地域で実情は違うが、社会福祉法人や障がい者の施設がある地域もある。地域の防災訓練をされるときには、地域にある事業所とも連携していただき、障がいのある方や介護が必要な方などと、普段からおつき合いをしていかないと、いざというときに、なかなか有効な避難にはつながらないというふうに思うので、そういう連携を図っていただきたい。

基本計画2 住み慣れた地域で暮らし続けるための支援

(1) 新たな移動手段の確保

(仙田) ヒアリングの中でも、買い物や通院などの移動が難しいというお話や、交通機関が整っていないというような意見もあった。そういったところがこれからどんどんよくなっていくためには、課題を検討する場で積極的に課題を上げたりだとか、こういう方法がいいのではないかというような提案だとかが必要になるので、そういったところに積極的に参画をして意見を言ったり、現行のあいのわ銀行の移送サービスであったりだとか、ボランティアの方にも生活支援をしていただいたりという、そういったことももう少し周知をしたり、使いやすいサービスの開発も今後取り組んでいく必要があると感じている。

(桑名) これから地域に常設型サロンが作られたり、日常の買い物や通院といった生活にも、交通手段は切り離せない課題だと考えている。これらをどのようにしていけばいいかということは、今後引き続き検討して解決しなければならない課題だと考えている。

(2) 福祉人材確保に向けた都市農村交流の促進

(仙田) 福祉人材の確保を目的とし、その方法として、色々な交流のプログラムや南部町出身で町外に住んでおられる方との絆も大切にしながら、交流できるようなことも考えていきたい。

(桑名) 地域を支える方が減っていく、高齢化していくというのが目に見えている。南部町にしっかり関心を持っていただける方、南部町へ来て暮らしたいと思われる方を増やしていくということが重要だと思う。

(土江) 基本計画3と4で同じように福祉人材の確保ということで、目的が同じだと思う。あえて分けている意図は。

(桑名) 前者は町内で福祉に携わっていただける方を育成していくという意味合いが強く、後者は外から人材を確保するための取り組みということで分けている。また、都市農村交流は福祉に限ったことではなく、地域づくりという広い観点でも共通する部分があるかと思い、分けた。

(土江) 集約して、地域の人、それから外からの人というように、両方とも盛り込めばいいのかなというふうに思う。多様な福祉人材を確保することの対応で、期待するところが、県内・県外の人と両方とも同じということであれば。

(竹川) ここのイメージを説明しておきたい。特に最近離島や中山間地域は福祉人材確保が厳しい、確保しても厳しいということで、もう内なる人材育成は限界が来ている。外から招き入れようという動きが活発化している。私が知る範囲では島根県が力を入れており、隠岐の島では東京に行って、隠岐の島の魅力を伝えると同時に、看護師や介護士にぜひ体験で来てくださいと、ピントを絞って実際に来ていただき体験していただいて、もう既に何人もIターンというかたちで人材を受け

入れているし、シングルマザーの方に焦点を当てて、都会のほうでシングルマザーでなかなか生活しづらいついていう人を、生活も含めて支援しようっていうことで、招き入れるということもやっていらっしゃる。福祉とか医療を切り口にした I ターン戦略をとっていらっしゃる。なので、あえてここで持続可能な地域づくりという観点で、こちらのほうに位置づけてはどうかと整理してある

(垂水) 福祉というのは、大体役場や社協が本当は表に立って主体的にやっていくものだと思う。今回は、活動の主体は地域振興協議会だと出てきている。行政の取り組みは、支援しますというくらいで、地域振興協議会はそれだけのことをできる組織ではないと思う。

(桑名) 役場や社協が担っていた部分をお願いするものではない。5 年先、10 年先に地域福祉の課題が山積して、立ち行かなくなるのが見えてきている。そこでやはりその地域の皆さんに地域の実情をしっかりと理解をしていただき、みんなで支えていく。決して地域振興協議会に全部お願いしますというものではない。

(垂水) やはり社協や役場が前面に立って出て、地域振興協議会がそれを補佐していく、そういう感じではないかと思う。

(桑名) 役場の立場、社協の立場、地域の皆さんそれぞれ自体ができることをうまく連携をしていって、この地域を支えていきたいという計画で今つくっておりますので理解いただけたらと思う。

(唯) 協議会が多いと感じる。これだけ協議会が入るのであれば、プランニングするときから（協議会）連絡会の中から誰か会長が入っていればいいのだろうけども、初めて見る内容だったから皆が驚きを持っている。地域も変わらないといけないというのは皆、理解できるものの、あまりにも誰が見ても協議会が出ているから、できるだろうかという不安を住民の目線として言っている。気持ちを理解してあげないといけない。協議会の中でこの計画をどういう形でやればできるだろうか、やらないのではなく、できる方法をまず検証していかなければならないと思う。

(糸田) 協議会が地域づくり計画を立てて、これまで色々な事業をされてきている。計画面で、何か壮大なことを協議会に我々が求めているようなイメージで取られたのかもしれないが、私たちから言うと、もう既に色々なことをしてきていただいているという素地があると思う。ただそれでも人口減少とか高齢化とか担い手不足ということが出てきていて、それを今の状態のまま、今の組織のまま、役場ももちろん頑張るが、それで継続できるかというところが、非常に不安なところ。でも、文字にすることによって、今ここできちっと連携が見える化をして、もう一度私たちも一緒になって、皆さんとどうやったら地域で最後まで、住み慣れたところで暮らしていける南部町ができるかというところを考えたいという思いで、この福祉計画に向かっている。決して、協議会に丸投げしようとか、さらに負担してもらおうということは考えていません。福祉計画を地域づくり計画と一緒に

やっていく中で、今の皆さんがされている事業の内容とかもちろん我々行政の仕事の内容とかも当然見直していく必要もあると思う。そこをまた一緒に考えていけるきっかけにしていきたいと思う。本当にこのまま、皆さんがじゃんじゃん税金をくださって、行政がじゃんじゃん職員をふやして、全てを賄えるかと言ったら、やはりどこかで限界はあると思う。専門職もどんどん南部町に増えればいいが、事業所も今とても人手不足な状況もあり、現在でも地域の力を借りながら専門職も一緒に支えているところもあるので、現実に近いところにも福祉計画を持っていかないといけないと思っていますが、文字だけで見られると、確かに「すごい負担だわ、これ以上何をさせる気！」と、皆さん思っておられると思いますので、そこは一緒になって、どういうものが少し力を抜いてもいいのかな、でもこここのところはもうちょっとみんなで一緒にやれるようにしたいなっていうところを一緒に話し合っていきたい。

(唯) 人口減少の将来を見越した中で、地域で誰が見守っていくかが必要。だから、計画の策定も必要。ただ、1番厄介なのは、就業が65歳から70歳まで延長となっている。今回も新たなプランの中で役割が色々出てきた。地域にお願いする人が出てきた。今、地域のなかで非常に悩んでおられるのは、委員になる人がいないこと。それで思ったのは、健康増進委員もそう、社会福祉協議会の地域福祉委員もそう、負担が重いから1年で交代している。今回のようなことを考えたときには、1年交代では到底できない。そこをどうするか。行政の中でも、地域に入って、今までのルーティーン業務を見直して行って、本当にやるべきことは何か、現実を知った上で策定をしていかなければ。地域の中は、疲弊まではしてないのだけれど、大変混乱しているというのが実態。各地域を代表してくれた住民の意見も大事にしなからすべきだと。ただ、できないのではなく、できるように考えるのが、7つの協議会の役割だと思う。そういう部分も今度の意見交換会で本音で議論させていただいて、住民の地域代表を我々協議会に付託をしているので、我々がそういう形で汗を掻かなければと思う。

(山中) 福祉は憲法で最低限の文化的生活を保障するというのがうたってあるので、こういうことになるのかもしれませんが、徐々にある程度自己責任の部類のところまで、援助・支援をする、活動するというようなところも感じるころがある。基本的には、私は福祉というのは、人と人とのつながりだから、どちらかと言うと、楽しいことなり、安心できるようなつながりをつくっていけば、自ずと、助け・助けられるという、そういう関係ができるのではないかな。増やしていくのではなく、絞っていくという今後の福祉施策をお願いしたい。また、役場の方は、「こういう問題もある、こういう問題もある」というように、ものすごく心配されているところがある。ただ、集落のほうからすると、なかなかつかめない。わからない。なおかつ、何か問題があったときに、「何かあるんじ

ゃない？」と言っても「これは個人情報だから、教えられません。提供できません」なら、我々はどう対応するのだというジレンマもあるわけですよね。その辺を、本当にみんなでやるっていうときにはそういう情報をいかに共有するかという仕組みも考えておいてもらいたい。

協議会も大変だろうけども、そこに出す集落も、人がいないので福祉人材を育成しましょう、そのいない人材をもっと出せ、もっとやれというような感じが受けられるので。だから、それより何か絞った形で、目先を変えた楽しいような、もっと積極的に参加したいというふうな風に、方向転換の検討をお願いしたい。

この中で、支援と連携の言葉がいっぱい出ているが、具体的に支援と連携というのは皆考えているものは別々のこと。ほとんど結果がどうなってもいいような言葉。具体的にどういう風にするのだということを、できたらもうちょっとわかるものを出してほしい。こちらはこれだけ支援してもらえんと思っているのに、ただ情報提供したから支援ですって思っているかもしれないという、その差が大きいので、もうちょっとその辺のところを、今度の協議会との会ときにはしっかりと、具体的に出していただければ、協議会のほうも安心されるのでは。

(糸田) 具体的にどういう動きをするかということは、この計画のもう少し先の段階と思う。当然この計画が完成した暁には、実際の施策や社協の事業として落とし込んでいくと思うので、その都度きちっと皆さんに説明をして、今年はどういった事業を進めていきます、この計画のこの部分について力を入れて事業をやっていきます、というところを示していけると思う。ただこの計画の中で、一つずつそれを網羅していくことは、難しいと思う。

(竹川) 協議会の負担がどんどん増えるのではないかとということで心配をされているお気持ちはよくわかる。私の思いとすれば、20年30年先も南部町の皆さんが安心して暮らせる地域をつくるにはどうしたらいいか、前回も説明をさせていただいた。そういう観点で作っているんで、いたずらに皆さんの負担をふやそうという意図はない。では、どういうふうに見ていただきたいのかと言いますとこの図がある。私が正味必要なところはここを見てほしい、この1番下のところだけでいい。要は、これから地域振興協議会で何ができればいいのかというと、まず地区に身近な相談窓口があって、そして、活動メニューとすれば重点取組4で、介護予防の活動がどの地区でも、毎週のように皆さんが集まって、100歳体操できる。そして、常設型サロンというのがあって、ふらっとここにおじいちゃん、おばあちゃんが来られて、ぺちやくちやお喋りをして帰っていける。また、生活が不安な方については見守りとか、あるいはちょっとしたお手伝いとか生活支援活動ができる。子どもに関しては、その地区にあった子育て支援ができる。これも全部やるのではなくて、地域の実情に応じて、本当に必要なものをやりましょう、って言っているだけ。ただ、これも、ただ100歳体操やるのだったら、それなりに人増やさ

ないといけないし、組織も何とか強化しないといけないという話になってくると、上のほうに来る。では、どういうふうな組織づくりをすれば、これが可能になるのかという話をしている。確かにたくさんの方が書いてあるが、この10年後20年後に地域振興協議会が継続して取り組める活動を意図して書いている。これを地域の実情に合って組み立てましょう、ただし、人が少なくなるので、今みたいに地域の中でバラバラに同じような機能を持った人が、地域の中に複数存在するのは非効率だからやめましょう、どこかに集約しましょうというふうにしなないといけないと申し上げている。そうしないと持続できない。そんな役を持った人がいっぱい地域の中にも仕方がない。これはスクラップアンドビルドしましょうという話。そういう観点で見ただけだと、今回のこの計画がどういう意図なのかというのがわかってくるのではないかなというふうに私なりに思う。

(竹川) 計画の並べ方について私なりの意見を言わせてもらってもよろしいか。重点取組4の健康づくりの推進というところで、事務局の議論の中でも、骨子ができてから後で重要という話になった。今思えば、やはり重点取組に関しては各基本目標の中でも、上に入らないとおかしいと思う。健康づくりの推進は、基本目標3の基本計画としては、1番目にこないとおかしのバランスが合わないというふうに思うので、この並び順は変えたほうがよいと思う。

第7章 計画の推進

(1) 健康診断の受診促進

(桑名) 計画をつくれれば、進捗管理も必要になってくる。体制を明記することによって実効性を持たせるということが大事。福祉部門を初めとして、防災関係部門、子育て、教育部門など、幅広い分野で連携をして進捗管理をしていきたい。政策によって総合的に進めてまいりたい。社会福祉協議会と連携をして、町以上に社会福祉協議会の前面に出させていただいて、皆さんの地域を支えていただくという思いがあるので、ここに掲げている。

参画と協働による推進ということを書かせてもらっている。それぞれの地域に向いていってご意見を伺うことをしたい。今、策定委員さんに意見をいただいているが、実施にあたってはその時々に応じて不具合等が生じたら修正をしていく必要があると思う。改めて相談をさせていただくが、策定委員会が終了したら、引き続き進捗を管理していただくような委員会をつくって、今後の議論を進めていきたい。計画の進行管理については、PDCA サイクル、計画・実行・点検評価・見直し・改善というサイクルを守って行って、計画がどのように展開しているか、しっかり管理をしていただきたい。必要に応じて、計画期間中でも計画の見直しをしていきたい。

地域で実践されるときに、まず、プランから入ると動きがとれないので、気持ち

のある方々に寄ってもらって、まず、やってみるということから、始めてはどうかということで、こういう「DCAP」というやり方もあるという紹介という意味合いで書かせてもらった。

(2) その他

(桑名) 今後の予定について説明をさせていただきたい。8月18日に地域振興協議会の会長に集まっていたいただき意見交換を行いたい。

基本理念について、4つ事務局案を出している。共通するような項目も出ており、統一されてはどうかとか、事務局案を1つ提示されてはどうかというようなご意見も頂戴をしている。本日、皆さんにお諮りしたかったが時間がなくなったので、次回、皆さんの意見をお伺いする。

また、この時間中に発言できなかったけれど、「こういったことも意見があった」とか「質問があった」というものがあれば、できればペーパーで意見をいただけたらと思う。前回の会議までに意見をいただいている部分もあるので、その辺りも踏まえて、お答えできる部分や考え方を整理したものを皆さんにお返しのできたらと考えている。

3 閉会